

## 健康新聞

## すやか

題字 新保勝海

## 草声

## 元氣

「風がおる」というのはちょうど今の風である。  
それにしても、今ほど、自然を近くに感じられる時はない。  
暇な一日。

外に出て、その薫りをいっぱい吸い込んで、少し庭を歩く。  
盆栽仕立てのもじが美しい。  
その前に屈みこんで眺めていると、背後から時々、サラリと風が来る。その風に小枝が揺らいで色を増した新葉がサラサラと戦ぐ。音が優しい。飽かずながめていて、いつの間にか心が和み優しい自分になっている。幸福な気分が浸っている。後にあって、思い出して「自然は偉いなあ」とつくづく思う。

時に、自然の中に分け入り幾多の生命の存在を確かめる時、素直に謙虚になっている自分に気付く。  
自然は人間だけを生かすため

にあるのではないのだと気付く。その時、幸福な気分がゆつくりと広がってゆく。  
自然の中に在れば、こんなに素直になれるのに、幸福な自分になれるのに、人の世界に生活すれば、その素直さも、優しいさも、幸福感も、すっかり失くしてしまっている。悲しい。どの場にあつても、自然に生きたいと願いながら、なかなか自然に生きられない。

小さな生きものを見つめる子供達の目は優しい。だから、我々の生活も他の生命から決して隔離したくない。自然に生きていることが、即ち健康に生きていることにつながるからである。そして、生命に対する、いとおしみと優しさがそれを創ると思うからである。  
幸い、廻りには自然はまだ豊かである。窓を開ければ、薫風が元気を運んで来てくれる。

(鍵山)

## 童謡

## 夏は来ぬ

小山作之助 作曲 佐佐木信綱 作詞

一、卯の花の白う垣根に、時鳥  
早も来ぬきて、思音もらす  
夏は来ぬ

二、きみだれの注ぐ山田に、早乙女が  
雲裾ぬらして、玉苗植うる  
夏は来ぬ

三、橘の葉の軒端の、窓近く  
鶯飛びかい、おこたり詠むる  
夏は来ぬ

四、棲らる川べの宿の、門近く  
水鶏声して、夕月すすしき  
夏は来ぬ

五、五月やみ、螢とびかい、水鶏なき、  
卯の花咲きて、早苗植えわたす  
夏は来ぬ

佐佐木信綱は万葉集研究家であり、この歌調もまた万葉集などが下敷きになっていると思われる。例えば「卯の花の白う垣根に」は「卯の花の白う垣根に」を「卯の花の白う垣根に」として用いたと見られる。この歌調は「卯の花の白う垣根に」等の例がある。

今子どもたちを  
考えよう

## 子どもの詩

おにぎり 一年 男子

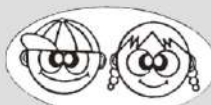
おかあさんのてがやけどするくらいあついこは  
いでおにぎりつくつたら  
いちばんおいしいおにぎりに  
なるねん  
たべるとき おにぎりが  
やさしくたべれる  
きれいな詩があります。

つばき 四年 女子

あかいつばき  
たべたいほどあかい  
深刻な詩があります。

チューインガム 三年 女子

せんせい おころんとつて  
せんせい おころんとつて  
わたしのすくわりのこと  
をした  
わたし おみせさんの  
チューインガムとつてん  
一年生の子とつてしめて  
チューインガムとつてしめて  
すぐ みつかつてしまった



笑顔 ひろがる あいさつの町  
鍋島中校区 たんぽぽ会  
あいさつ運動

おかあちゃんに  
みつからへんとおもつとつた  
のに  
やつぱり すぐ みつかつた  
あんなこわいおかあちゃん  
のお見たことない  
あんなかなしそうなおかあ  
ちゃんのかお見たことない  
しぬくらいたかれて  
「こんな子 うちの子とちが  
う出ていき」  
おかあちゃんなきながら  
そないいうねん  
わたし ひとりで出ていって  
いつでもいくこうえんにいっ  
たら  
よその国へいったみたいな気  
がしたよ せんせい  
どこかへ いってしまお  
と  
でも なんぼあるいても

どこへもいくところあへん  
なんぼ かんがえても  
あしばかりふるえて  
なんにも かんがえられへん  
おそくに うちへかえつて  
さかなみたいににおかあちゃん  
にあやまつてんけど おかあ  
ちゃんにわたしのこおを見て  
ないばかりいる  
わたしは どうして  
あんなわるいことしてんやろ  
もう一日もたつていないのに  
おかあちゃん  
まだ さみしそくないない  
せんせい どないしよう  
かと思えば涙もなく愉快  
になる詩があります。

あかちゃん 一年 男子  
あかちゃんが  
へをこいて わろた  
今年度三年生女子の「お  
なら」の詩  
おなら おとなだつたら  
かんごふさんになつて  
おなら ばつかり こきます  
びょうにんを しんざつして  
いるときもおならをこきます  
かんじやさんが がまんして  
たら  
もつと もつと  
おならをこきます  
けつこんしても おならをこ  
きます  
わたしのうんだ子どもにも  
おならを こかします  
うれしいときも  
おならをこきます  
おめでたいときも  
おならをこいて おいおいし  
ます  
わたしがいいことをしてし  
ぬ  
みんな おはかにきて  
ほめてくれるでしょう  
そのときも  
おならをこいて  
みんなをおどかします  
かみさまにおこられても  
ぶーぶーとおならをこいて  
ごまかしておきます

健康に感謝

漢方と調剤

ヤマト薬局

尼寺店

☎62-8162

佐賀市大和町尼寺 グリコ北

処方せんは  
どこの処方せんでも受付ます。

健康に感謝

漢方と調剤

ヤマト薬局

立石店

☎51-2882

〒840-0851 佐賀市大和町東山田2100-5

処方せんは  
どこの処方せんでも受付ます。

健康を考える 養正会

医大前 養正会薬局

薬剤師 鍵山 稔明

☎30-2694

〒849-0937 佐賀市鍋島4丁目1-6

処方せんは佐賀医大病院ほか  
どこの処方せんでも受付けます。

ドクダミ

梅雨のころ白い花を咲かすが、この白い花は葉の変形したもので、真ん中の棒状（黄色）のものが花。



葉は赤みを帯び、ハート型。

ドクダミは、たいいてい日の当たらないやや陰湿な場所に自生する。

毒下しの妙薬といわれるドクダミ、名前の由来は毒痛み（毒にも痛みにも効く）からとられたであろうと言われている。又、十種の薬に値する。十種の病気に効くという事で「十薬」。重ねて薬になるということから「重薬」とも呼ばれる。佐賀の方言としては、この薬がワクド（ガマガエル）が好む湿りけのある所に生えていることから「ワクドクサ」。又、トベラグサ、ヘクソカズラ等とも呼ばれている。

昔から民間薬として広く使用されており、現在でもゲンノシヨウコ、ハブ茶と共に最もよく使われております。

日本のいたるところの生け垣の下や、裏庭などの日陰に生え、多年草でさかんに繁殖する。全草に特異の悪臭がある。この悪臭の成分はブリンアルデヒド、ラウリンアルデヒド、デカノイルアセトアルデヒドによるものと言われている。白色の地下茎が横に走り、葉は卵状心臟形で、先端は急にとがり、紫紅色を帯びて、サツマイモの葉のような形をしている。梅雨のころ白色四角の十字状の花を開き、ガクと花弁とが細い花の集まりである。「どくだみや真昼の闇の白十字」「どくだみの

花の白さに夜風あり」等と吟まれて親しまれている。

採取時期は花期（梅雨の頃、この花の開花が梅雨入りの目安になる）で、この時に地上部全草を取り、日光に二日ほどあて、あと日陰干しして乾燥して適当の大きさに切り、紙袋に入れて貯蔵しておく。

**薬効**

一成分のデカノイルアセトアルデヒドは、カビの発育をおさえ、白鮮菌の水虫、たむし、いんきんたむしなどに抗菌性を示す。又、化膿菌に対して殺菌作用もある。

昔から腫物を吸い出すのと、毒下しに用いられており、そのほかには痔疾患、鼻の病氣、打撲、切り傷、毒虫にさされた時、カイセン、かき、尿道炎、又、毛細血管強化作用もあるのので、高血圧、動脈硬化、心臓病等にも用いられる。

**使用法**

**はれもの**

生の葉を火にあぶってやわらかくして、はれもの大きさに丸めて、患部にのせ、パンソウコウで止めておくと、早く膿を吸い出し、痛みも少なくてすむ。又は火であぶってからもんで汁を出し、それを患部に塗っ

てもよい。

痔口で痛みかゆみのある場合生の葉に塩少々入れて、すりつぶし、脱脂綿にのぼして肛門にはる。干したものを20gを水600mlで40〜50分火にかけて、その半量になるまで煎じて一日二回に分けて飲む。

**蓄膿症**

一日20gを水500mlで、半量まで煎じて、空腹時に一日三回に分けて飲む。少なくとも二か月以上連用しなければ効果があらわれない。生の葉4〜5枚を塩でよくもみ、汁の出るくらいにして、まるめて鼻の穴の片一方に挿入し、30分位で鼻をかむと、ウミのような鼻汁が出てくる。これを一日3〜4回行うと非常に効果がある。又は、夜床につくときに、鼻の穴片一方につくとき、そのまま寝て、約5時間経過後したらとり、鼻をかむと、悪臭のある膿液が出る。その後、もう一方の鼻の穴に同じようにして寝て、翌朝起床のときに同じように鼻をかんで膿液を出す。一日だけでも、翌日は更生したようにさわやかな気分になり、3〜4日後には、吐く息にも不快な悪臭がなく、膿液も少なくなってくる。2〜3週間続ければ、膿汁はすっかりとれてしまします。

腰痛、冷え症、痔  
煎汁を浴剤として利用する。よく温まり効がある。

水虫  
生薬を塩でもんで、やわらかくして患部にあてる。

便秘  
15gを煎服する。2〜3日続けても排便のない時は、増量してセンナ葉15枚位加えるとい。又、ドクダミ15g、大黃2gを合せたものを煎服するとよい。

にきび  
ドクダミ30gとハトムギ皮付きの粉末20gを1日量として煎じて服用する。又、ユキノシタの生薬をすり合わせたものを患部にはる。

ジン麻疹  
ドクダミ20g、ゲンノシヨウコ20g、決明子（はぶ茶）20gを含ませたものを1日量として煎服するとよい。

毒下し  
ドクダミ12gと忍冬8gを一日量として煎服する。

いぼ  
ドクダミ15gとハトムギ20gを合せたものを煎服する。

髪を美しくするには  
ドクダミ15g黒豆25gを煎じてお茶代りに服用する。

夜尿症  
ドクダミを濃く煎じて、さかづき一杯ずつ、1日5〜6回服用する。

おばあちゃんのかんがえ

知っていますか？

おばあちゃんのかんがえ

暑くなって、汗ばむ季節になつてきます。わががいは、他人はもとより自分自身もいやなものが多いです。わががいは、腋窩の汗が臭いを放つもので、多汗症を伴うことが多く、その発汗によって悪臭が、一層増加するそうです。これには、焼ミョウバンをガーゼに包み、打ち粉にして腋窩につけたもので

養正会薬局 高木 丈夫



こどもの病氣シリーズ

『夏に多い病氣』

手足口病

生後6ヶ月〜4、5歳の乳幼児によくみられる夏カゼの一種で、ウイルス感染によるものです。軽い発熱と手のひら、足、お尻に小さな水疱が現われ、口の中にも口内炎がでます。普通の場合は、数日で治りそれほど心配はいりません。

とびひ

細菌が、皮膚に感染して化膿をおこす病氣で、その内容物が他の皮膚につくと自分はもちろん他人にもすぐ感染するので、とびひといひます。

（症状）

3〜4日の潜伏期の後、手のひらや指の側面、足のほかと、お尻、口の中に水疱がまばらに現われます。開けが赤く縁だられた米粒大から小豆大の楕円形の水疱でかゆみや痛みはありません。この水疱は破れることなく2〜3日経つと内容物が吸収されて小豆色から赤色の斑点になり数日で消えます。口の中の水疱は、口唇の内側、頬の内側、舌などにできますが短時間で破れるので普通は赤く縁だられた楕円形の潰瘍としてみられます。

（治療）

直接このウイルスに効く薬はありませんが、二次感染予防として抗生剤を内服したり口内炎がひどい時は紫色の外用液（オクタン）液を塗ります。

（注意）

発疹が水疱の間は爪でひっかいて細菌などに感染しないように注意することが必要です。口内炎がでている時はしみるので、食事の味を薄くしたり流動食にしたり、プリンのようなとろしりのよいものを食べさせて痛みを軽減してやるのが大切です。食事が十分にとれない時でも、水分

（治療）

患部を消毒し、抗生剤や消炎剤の入った軟膏をぬり、ガーゼなどでおおって、分泌物が周囲につかないようにします。かゆみを抑えるためかゆみ止めの内服や抗生剤の内服を併用します。症状が重くない場合は、軟膏をぬってガーゼで患部をおおえば、登校、登園も入浴もさしつかえありませんが、水疱の中の菌を健康な皮膚面につけないようにする注意が必要です。いづれにせよ、皮膚の不潔な状態、あせも、虫さされなどが誘因となつておこりますか大切に。

養正会薬局 薬剤部



漢方と調剤

健康に感謝

ヤマト薬局

江北店

☎86-2973

杵島郡江北町 ジャスコ前

処方せんはどこの処方せんでも受付ます。